



宝城庵正面

宝城庵（ほうじょうあん）

J R 島本駅より西側の桜井三丁目にあります。

りんざいしゅう だいとくじは ほだ
臨濟宗 大徳寺派 補陀山と号します。

せいかんぜおんぼさつ
本尊は聖観世音菩薩で、創建は不明です。

てんだいしゅうおうとうじ
以前は、天台宗応塔寺（小字応堂寺山）の寮舎でしたが天文年間（1532～54）

兵火に遭い全焼したようです。当時の住職が再興の意志を継ぎ、禅門に入り、

げんき
元亀二年（1571）現在地に庵室を立てて宝城庵と称し、禅宗に改めました。

かんえい えいしつ いおり かんぶん
寛永年間（1624～43）に栄室が庵を再興し、寛文年間（1661～72）に大徳寺
の大徹明応禅師を迎えて開山し、それ以来、大徳寺の末寺となりました。

やましろめいしやうし い ろ は あざるいしやう
「山城名勝志」所引の「以呂波字類抄」によれば、「大山崎半路橋上第二之
みそぎ ちょうじ かいげんくやう
木」を御衣木とし彫刻したという、長治二年（1105）開眼供養の薬師如来像に該
当するものと思われます。また、円満院宮の祈念仏と伝わります（大阪府全志）。



薬師如来立像（やくしにょらいりゅうぞう）

宝城庵薬師堂の本尊で、左手に薬壺を持つ一般的な薬師如来像です。

像高は 96.5cm、薬壺を手と共彫りしていて、平安時代後期の薬壺を表す数少ない例として貴重なものです。作者は不詳。

ヒノキ材、一木造り、彫眼、彩色仕上げ。頭頂から足柄まで一材で彫成され、これに両肩に材を寄せています。

螺髪切子型（彫出）。肉髻珠・白毫相は表していません。三道を表し、耳朵は貫通しています。

左手は、掌を上にして薬壺を載せ、光背を負い、蓮台の上に両足を揃えて立っています。台座、光背は後のものです。

鼻・手などに補修の手が加わっており、右手は袖口を入ったところではぎ、薬壺と共木の左手は袖口で短いでいます。

全面黄土彩色を施していますが、彩色はほとんど剥落しています。

平安時代における数少ない優作の一つとして、また保存状態が良好であることも賞され、平成23年4月1日に町指定文化財の第3号に指定しました。